

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170300269		
法人名	医療法人 智盛会		
事業所名	グループホーム 桃の香		
所在地	岐阜県美濃市もみじヶ丘2丁目45番地		
自己評価作成日	平成25年9月12日	評価結果市町村受理日	平成25年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170300269-00&PrEfCd=21&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成25年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活が送れるように努力、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設した通所介護事業所の利用を経て入居した利用者も多く、ボランティアの訪問時・入浴・食事時に適宜行き来し、職員や他の利用者との交流も楽しんでいる。地域には若い世代の住民が多く、「子ども110番」に登録し、散歩時はオレンジ色の啓発用ベストを着用し、地域の子育て世代の応援に「みちびき活動」として取り組んでいる。母体が診療所で管理者が医療職であり、夜中でも連絡が取り合える関係でホームで看取りを希望する利用者には、前向きに考えている。管理者は職員を第一に考え、疲労やストレスに気を配り、職員は働きやすいホームと感じ、お互いに言いやすい関係がある。利用者が自宅に帰ってもホームにすぐに帰りがたがる等温かい雰囲気のあるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活観、価値観を共有できるように関わりを絶やさず、その人なりの対応に重点をおき関係性の継続に繋げている。	職員で作った理念をスタッフルームや居間に掲示し、日々の介護で意識しながら実践している。日常生活の様々な場面で、利用者一人ひとりのペースを尊重し、利用者の思いに合わせた支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスで交流のあるボランティア団体の方々が、ほぼ毎月のように発表会の場を提供して下さり、それに参加しながら生活のリズムを取り戻せるように支援している。	地域には若い世代の居住者が多く「子ども110番」に登録し、利用者との散歩時は啓発用ベストを着て、見守り活動に協力している。幼児や小中学生の訪問で楽しんだり、買い物時に会った人と気軽に挨拶を交わしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャリアパスや地域の音楽教室などを通して交流の場を提供しているが、未だ地域に浸透するほどの実績は得られていないのが現実である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や市役所の方々の援助や様々な情報指摘を頂きながら、地域貢献を含めサービスの向上を目標に尽力している。	ホームの現況報告をしたり、行事への参加を呼びかけたりしている。地域の理解者である民生委員の参加を得て情報交換をし、運営に活かす意見を求めている。外部評価後は、報告も含めて改善に向けた取り組みの検討をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に情報を伝えながら質の向上に努め、サービスの質の向上に取り組むようにしている。 (他施設の運営推進会議で役員として参加されている市町村担当者と交流を持ち様々な情報を共有できるようにしている)	認定の更新時や書類手続き等は市に出向き、相談したり電話で説明を受けたりしている。ホームの運営状況や入居者の相談事等に市の担当者と常に関り、情報を交換しながら良い関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症の質の変化があり、現在は開放に向けて取り組むようになってきている為、徐々に施錠しない方向の検討をしている。	ミーティングで身体拘束の弊害についての確認や研修をして理解を深めている。身体を抑制するための拘束や言動での拘束はせず、玄関周辺を何度も行き来する利用者には外に連れ出したりしているが、玄関は日常的に施錠し自由な出入りができない状況である。	玄関は利用者の身の安全を優先し、オートロック方式で施錠しているが、時間帯や職員体制の工夫等で施錠しない方法の検討をされたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在も研修したことや、実際に関わって感じたことを話し合い情報を共有し、虐待等を見過ごさないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度等に関して、未だ相談や活用できる場がないため、今後も継続して活用できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に家族と関わりを持ちながら、不安・疑問等が無いかな確認しながら理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や運営委員会などで、意見等の発言があった場合必ず管理者は会議の場や職員に報告し、何が最適かを情報として理解しながら今後に生かせるよう相談しながら実践していくようにしている。	面会時に職員が気軽に声かけし、要望や意見を聞く努力をしている。月1回の手紙やホーム便りの送付時に、第三者委員や他の機関があることを伝えている。家族から出た意見は、職員で検討し取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に情報はだれ彼関係なく、施設運営に関して反映できることは実践し、質の向上に努めている。	職員から出た意見は月1回のミーティングや会議で検討し、取り入れている。些細な意見も否定することなく、実践し修正しながら日々の介護に活かすように、全職員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場での環境整備は管理者が気を付けながら職場の雰囲気を感じ取り不安、不満などあれば対応しているが、給与面では現状整備できない所もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員からの疑問、質問の相談を受けた場合は後にせず、直ちにその問題に対しその職員が理解できるように話し合うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在も他施設のリーダーと情報交換をしながら情報の共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊張が強く、不安な表情で佇んでいるような状態の入居者に対して、常に寄り添い話しかけながら不安の軽減、緊張の緩和に努めながら、今何を希望し、何を求めているのかを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望のご家族が来所した場合、今一番不安なこと、不安なことを聞き、入居後に反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様サービスできるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、自分の家族や祖父母のような関わりをもち、常に情報が共有できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会など来所されたとき、その方の傍に付きご家族に「こんなことがあったね、あんなことがあったね」と報告しながら情報の共有に努め、ご家族からの情報も得られるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では会話が少なくなってきた為、情報として得ていることをご本人に会話のなかで伝え、入居者の反応を確認しながら関係が途切れないように努力している。	併設する事業所の利用日に合わせ、知人と一時を過ごす利用者もいる。友人や親族の面会時は湯茶でもてなしたり、電話をかける支援をしている。家族の協力で墓参に行ったり、自宅に立ち寄り関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	起床された時点でリビングで寛いで頂く様にし、孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族が訪ねてきたりしているため、他施設等の情報も得られている。その情報を基に当施設での足りないところが再確認できると同時にご家族の相談相手にもなれるため、大切な情報源である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢になり訴えは減少しているが、時折我々に見せる仕草などで出来る限り理解するように努力している。	日々の関わりの中で利用者に合わせて声かけし、把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は家族や関係者から情報を得て、食事や洋服等は選択しやすいように声かけし、思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	嗜好品など、ご本人の好きなものを出来る限り提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢の為、訴えが無くても出来る限り把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の体調など、その都度変化してくる状況を職員から聞き確認をとり、プランに反映できるように計画を立てている。	看護師や医師の意見も参考にし、介護支援専門員が職員や家族と話し合い、計画を作成している。利用者の身体状況が変化した場合は、要望を聞いて家族に分かりやすく説明し、臨機応変に対応し計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	通常の記入方法から変更し、極力入居者の側に寄り添い、状況の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員自身が拘らず、臨機応変に対応できるように管理者が指導しながら、常に状況把握に努めている。		

グループホーム桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢に伴い補助具等に頼りようになり、自由が利かなくなってきたる為、職員のかかわりで精神的不安などの軽減に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医より指示があり、提携病院や歯科往診依頼ができ、常に入居者のケアができるようにつとめている。	これまでのかかりつけ医を基本とし、殆どの利用者が母体の主治医となっている。歯科・眼科・整形外科等に関しては、家族の協力を得て受診し、書面や口頭にて連絡し、協力医や職員と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、職員が医療面での不安や方法、関わり方などをその都度説明しながらその病気への対応を指導し、利用者の苦痛や不安の軽減に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時現状の把握(病気)や提携病院ケースワーカー、訪問看護と連絡を取るなど、常に情報の共有が出来るように心がけている。(グループホームの空室状況なども含め)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや終末期など入居時や入居中の方のご家族に、現在や今後の状況を説明しながら少しずつ理解をして頂き、緊急時対応や急変時対応についても説明し理解納得を促している。	入居時に、緊急時も含めて重度化や終末期の対応についての説明をしている。家族や利用者の意向で看取りの希望があれば、看取る体制に向けて職員で話し合っている。摂取状況や医療処置の有無で、その都度、話し合い情報を共有しながら、方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に消防署に依頼し、救急普及員の講習に参加資格習得し、緊急時対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち入りで夜間想定避難訓練を実施しているが、地域住民には未だ強力体制については築いているようには思えないところがある。	避難経路の確認や消火器の使い方等避難訓練を定期的に行ない、職員は普通救命講習を受講している。民生委員の協力は得ているが、若い世代の住民が多く、地域住民等の協力を得るまでには至っていない。	職員だけの避難の限界を考慮し、運営推進会議や様々な場面で地域の協力が得られるような働きかけに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	このような仕事にに関わっている以上、ご本人のプライドや敬意をもって関わることが大切であり、プロとしての人格が必要である。	一人ひとりの尊厳を大切に、目線を合わせて声かけし「ダメ」と言う言葉は使用しないよう心がけている。業務日誌も個人が特定できないよう利用者の名前で無く、イニシャルで書き、個人情報についても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも声掛けを忘れず、常に問いかけながら情報の収集に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎回勤務優先ではなく、関わりを重視・尊重するよう職員に伝えながら業務を行っているため何気ない会話や仕草を見落とさないようにし、穏やかな一日を送って頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕必ず着替え、気持ちを切り替えて一日を送って頂けるように一日の中の僅かな変化を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢に伴い、一緒に準備できる方が減ってきているが、数人の方がお元気なので準備や片付けを手伝っていただいている。	一人ひとりの好みや状態を把握し、利用者により食べやすく刻んだり、アットホームな雰囲気の中で楽しく食事ができるようにしている。野菜の皮むきやスジとり、テーブル拭きなど、利用者の出来る事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢に伴い、不感蒸泄に気が付かない為、熱中症になったり脱水になる。その予防の為本人が「いらない」と言われても目の前に水分の入ったコップを置いておくようにし、いつでも摂取できるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つようしており、義歯もブラシを使用し、その後洗浄剤を入れ義歯の清潔を維持している。		

グループホーム桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢のため、オムツ使用者が増えてきているが、動ける方は時間を追ってトイレ誘導やトイレ介助しながら自立できるように支援している。	排泄チェック表を作り排泄パターンに合わせ、トイレ誘導や早めの声かけを行い、トイレでの排泄を心がけている。身体状況を確認しながら下着やオムツを使用し、日中と夜間のパッドの種類を変えて、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調が悪く寝ていることが多い入居者が、立ち上がりも不安定になったため、職員介助しながら立ち上がり訓練やデイサービスへ出向き、一緒に機能訓練を行う方もみえたり、その状況に合わせて筋力の低下を最小限に留めようとしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に時間は決めていないですが、デイサービスが併設しているため、時折昼間気分転換でデイの浴室を使用することがあり、皆さん入浴後笑顔でリビングに戻られ、その笑顔がなんとも言えないくらい満面の笑顔です。	好きな時間帯や入浴順・毎日の入浴も対応している。ゆず湯や入浴剤等で一人での入浴を楽しむように支援している。利用者の状態や希望に合わせて、機械浴・足浴・シャワー浴等を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはほぼリビングで過ごされていますが、その人なりの対応で、昼間自室にて傾眠していただき、夜間のこともあるため時間を見ながら起きていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目薬などは時間を決めて点眼し、内服薬に関しては処方箋を薬局より薬と一緒に文献も同封して頂いているため、その都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設のデイサービスにお友達が利用している方が多い為、レクリエーションに参加し交流を継続しながら気分転換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によりデイサービスの車を使用しながら、その時期の花々や景色を楽しみにお連れしたり、ご家族様との食事会などを開催し、家族交流にも貢献している。	日常的に好天時は近隣のコンビニや公園に散歩をし、車椅子の方も利用者と一緒に外出を楽しんでいる。近くに古墳があり、利用者の希望を聞いて、紅葉の名所や四季の観光にも全員でドライブに出かけている。	

グループホーム桃の香

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご高齢のため、お金を持つのを嫌がられる方が多く、現在は現金は事務室に保管しているため、必要に応じてもっていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会希望がある時などは電話にてご本人が依頼することがあり、手紙などは以前、暑中見舞いも書いていたが、最近は年賀状を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が地域の祭りを真似て作ってみたり、生活に関わりのある物を自室に置いたりしながら、少しでも居心地の良い環境を提供できるように心掛けている。	広い居間は、利用者が自由に過ごせるソファを置いたり、畳スペースで過ごしている。適宜、室温確認したり換気を行い、居心地良い環境になるよう努めている。利用者と一緒に作った季節の壁画や作品を飾り、話題にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当施設にはたたみの部屋がある為、何時でも使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族に説明をし、自宅で使っていた物を持ってきて頂き、不快感や不安感の軽減に努めている。	利用者が入居前に使用していた寝具・タンス・イス等を置き、写真等馴染みの物で自分らしい居室としている。居室で本を読んだり、編み物をしたり自由な暮らしができるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在も継続して職員が付き添い、自立できるように促している。		